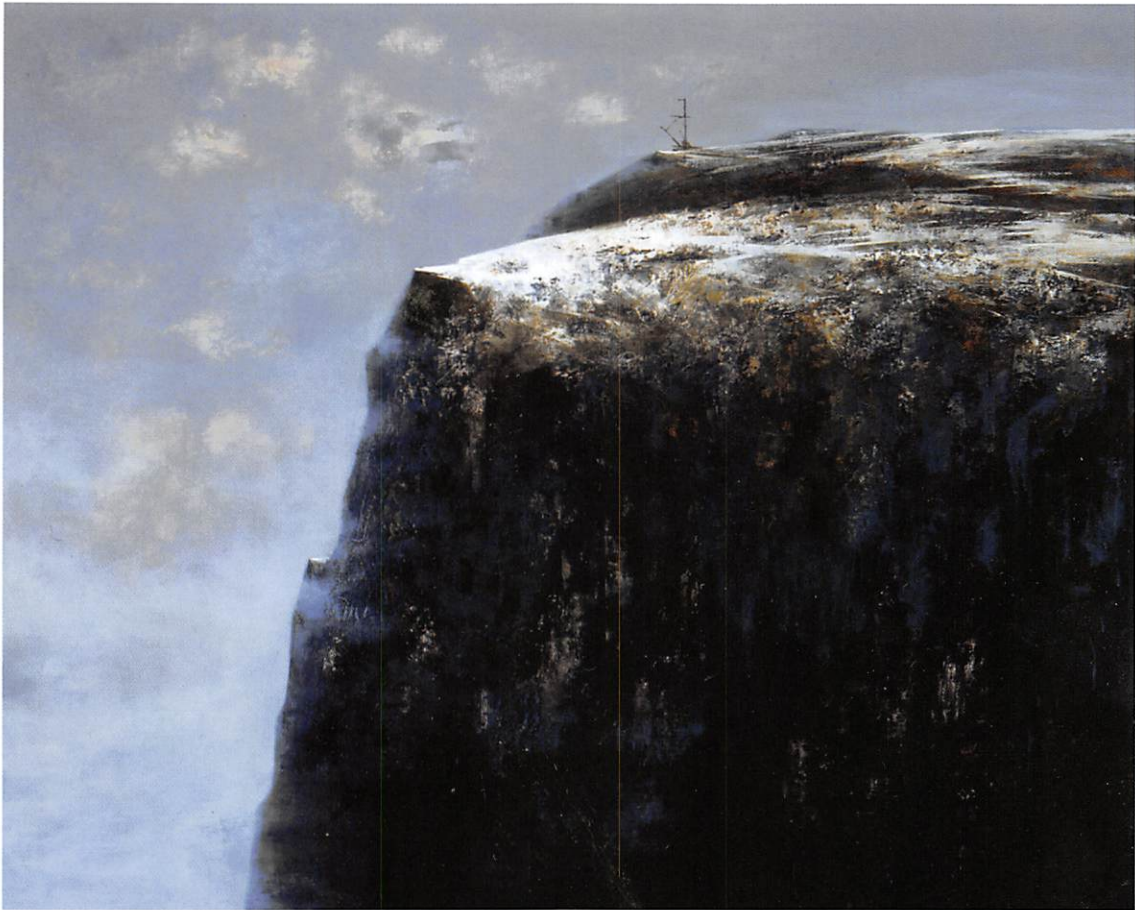


アルテピア

社団法人 北海道美術館協力会

札幌市中央区北2条西17丁目 TEL・FAX 011-644-4025



羽生 輝 「海霧（オダイト）」

2001年 彩色・板 181.8×227.5cm 〈北海道立釧路芸術館蔵〉

オダイトとは、明治時代に釧路の海岸に実在した地名。港の築造で姿を消した岩場のイメージを描いた作品です。制作当時、作者は北海道新聞で連載された原田康子の小説「海霧」の挿画を担当し、明治期の釧路付近の情景を数多く描いていました。

羽生輝は釧路で育った日本画家。一貫して釧路や道東周辺の海岸風景を題材にした作品の制作を続けています。特に秋から冬にかけての厳しい寒さに包まれる海岸風景の描写や、その地に息づく人々の暮らしのぬくもりの表現が特徴的です。

この作品では、画面から海も浜辺に広がる風景も省かれています。頂には吹きさらしの雪の積もる重量感ある岩、そして、岩の下に漂う海霧の描写は、眼下に広がる冬の海の様子を想像させるものであります。説明的な要素を削ぎ落とした描写であってもなお、冬の釧路の空気感、自然の営みが象徴的にあらわされています。長年に渡って道東沿岸の風土性を追究し続けてきた作者が獲得したまなざしを伺うことが出来る作品と言えるでしょう。

（北海道立釧路芸術館学芸員 福地大輔）

女絵かきとおばあちゃん

丸木俊・スマの世界

北海道立旭川美術館 学芸課長 中村 聖司

旭川美術館では、一〇月二〇日（土）から一二月九日（日）まで、「丸木俊・スマの世界ーいのちあるものたちへの賛歌」を開催します。

北国生まれの女絵かきー丸木俊

丸木俊（一九二二〜二〇〇〇）は、旧姓を赤松、本名を俊子といい、空知の秩父別町に生まれました。生家の善性寺は、俊の祖父が開拓期に開いた真宗のお寺で、俊は二代目住職の長女でした。駅から近い街の中心部に位置する善性寺には、現在、丸木俊と夫・位里の作品を展示する丸木美術室が設けられています（観覧は要予約。電話〇一六四一三三二二

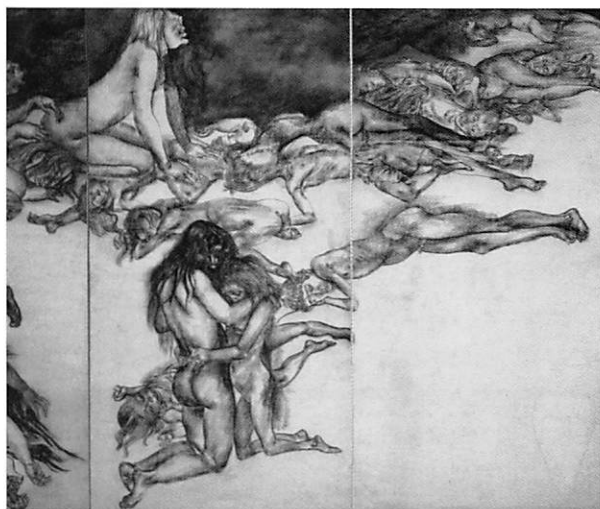


丸木俊「ロシアのわらべうた」(絵本原画) 1969年 個人蔵

一〇六)。また、厳しくもゆたかな自然のなかで、貧しいながらもたくましく暮らし、人間の喜びと悲しみを深く心に刻んで成長していく少女・俊子のすがたは、自伝『女絵かきの誕生』のなかに生き生きと記されています。

秩父別の小学校を卒業した俊は、北海道庁立旭川高等女学校（現・旭川西高校）に進みました。在学中に母を結核で失うという大きな悲しみを経験しますが、熱意ある美術教師たちとの出会いを経て、絵の道を志すようになります。

「東京の美術学校へ通わせるお金はない」と悩む父を泣いて説得した俊は、東京本郷の女子美術専門学校（現・女子美術大学）に入学を果たし、高女時代の先生たちに助けられてもらっ



丸木位里・俊「原爆の図第五部 少年少女」(部分) 1951年 財団法人 原爆の図丸木美術館蔵

たり、上野公園で似顔絵描きのアルバイトなどをしながら、デッサンや油絵の技法を学んでいきます。卒業後、小学校教師を経て、画家として独り立ちすることを決意した俊は、当時のソ連や日本領の南洋パラオに渡り、若い画家たちが集う池袋にアトリエを構え、やがて前衛的な水墨画家・丸木位里と結ばれます。位里の実家が広島にあったことから、昭和二〇（一九四五）年八月六日の原爆投下後、俊と位里は広島に入り、原爆で傷ついた市民が苦しみ、死んでいくすがたを目の当たりにします。この体験が、戦後、油彩画家・俊と



丸木俊「スマおばあちゃん」 個人蔵

彩に特色のあるそれらの作品は、俊の幅広い表現世界を示しています。

おばあちゃん画家 — 丸木スマ

丸木スマ（一八七五〜一九五六）は、広島

の近郊で生まれました。

幼いころから勝ち気で腕白で、野山を駆け、男の子とけんかして泣かせたりしたと伝えられています。学校が大嫌いで、ついに読み書きを覚えることなく、また、絵を勉強したこともありませんでした。丸木家に嫁いでは、長男位里をはじめ四人の子を育て、農業、船宿、養蚕、広島での工場勤めなど、はたらかしつめの人生でした。そのなかで原爆に遭い、夫を失います。

子どもたちのおかげで生活が少し楽になり、厳しい労働からようやく解放されたのは、戦争も終わって数年経ち、七〇歳も半ばを迎えるころでした。しかし今度は、隠居のような生活が「退屈で退屈でしようがない」。そんななかで、スマは日本画の絵具や墨を使って身近な人々や花、

動物などを描くようになります。素朴な描写のなかに、みずみずしい感性や、伝統的な絵の約束事にとらわれない自由さがあふれたその絵画は、女流美術展や院展で高く評価されました。なお、いつも明るく、たくましい「おばあちゃん」であったスマのすがたを、先に述べた自伝をはじめめとする俊のたくさんの文章がわざわざに伝えていきます。

いのちあるものへの愛と のびやかな絵「いろ

俊はスマの絵に注目し、制作を励ましました。一方、スマは原爆の体験を俊に伝え、また、絵画表現でも影響を与えたように見えます。

今回の展覧会では、こうした相互の関係にも焦点を当てながら、俊とスマの絵画をご紹介します。俊の作品は、初期から晩年までの油彩画やデッサン、絵本原画など。「原爆の図」シリーズからは、俊がほほひとりで描いた最初の作品と言われる



丸木スマ「草むらの親猫、子猫」 中期作品 個人蔵

「第五部 少年少女」（一九五一年）が出品されます。また、スマの制作期間はわずか七、八年でしたが、膨大な作品がのこされており、そのなかから、花や人や動物たちを描いた水墨彩色の絵画を展示します。今年俊の母校である旭川西高の創立百周年にもあたることから、多くの旭川市民の協力を得て、展覧会を開催することになりました。生きるものへの愛とのびやかな絵「いろ」どうぞお楽しみ下さい。

水墨画家・位里による共同制作という類のないかたちで、「原爆の図」シリーズを生み出させることになるのです。そして夫妻は日本を、世界を「原爆の図」とともに飛び回って平和を訴え、昭和四二（一九六七）年には埼玉県東松山市に「原爆の図丸木美術館」を開いたのです。しかし、俊が力を注いだのは「原爆の図」ばかりではありませんでした。若き日から晩年まで、旅先の風景を油彩画に描き、また、自ら絵と文を手がけた『ひろしまのピカ』をはじめ、松谷みよ子や石牟礼道子の文章に絵を寄せた『つじのむすめ』『みなまた 海のこえ』など、数多くの絵本をのこしました。軽やかな線や勢いのあるタッチ、あざやかな色

会長に就任して



新会長
吉野次郎

残暑の候、会員の皆様方におかれましては、益々清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、この度私、輝かしい歴史と伝統を誇る北海道美術館協会の会長をお引き受け致しました。

田上初代会長、武井前会長におかれましては、芸術・文化に対する造詣が深く、また当協会の会長にふさわしい優れた識見と指導力を有する方でありましたが、私は一介の銀行員であり、芸術・文化とは縁遠い生活を送ってきた所です。正直私に勤まるのか不安に思っているところでもあります。何かと会員の皆様方のご指導・ご支援を賜り、全力を挙げてことにあたって行きたいと思っております。

さて、戦後60年日本は経済的には大きな躍進を遂げ、有数の経済大国となっておりますが、ここ10年来の経済面での停滞により、社会の色々な面で歪が出てきていることはご承知の通りであります。世の中全体が余りにも経済面での競争に偏重し過ぎ、元来日本の社会を支えてきた、豊かな情緒や人間性といった、心の面での充実が疎かになっている様に思われます。

経済面での発展に併せて、精神面の充実が大切だと言うことを正に示している今日かと思えます。

加えて、団塊の世代が徐々に第一線から身を退き、高齢人口が日増しに増加している今日、豊かなそして充実した老後に向け、多くの人達が今までやりたくても出来なかった芸術・文化面への関わりを求めていることは自明でありましょう。

そうした大勢の住民の希求に応えるものの中心に、文化都市の象徴といえる美術館があり、その機能と役割は益々大きなものとなっていくものと思えます。

そしてその発展を支える、協会の存在意義は大きく、私自身、美術を愛する心豊かな皆様方と一緒に、北海道の美術界の発展にお役に立てることを大変うれしく思っております。

末尾になりましたが、道立近代美術館はじめ関係美術館の今後一層のご指導とご支援をお願い申し上げます。就任のあいさつと致します。

退任のご挨拶



前会長
武井正直

皆さん、大変お世話になりました。

昭和61年、当時の田上義也会長から引き継ぎ、20年間会長職を務めさせて頂きました。

顧みますと、まさに山あり、谷ありで、感慨入りのものがあります。

10周年を記念する「名画を贈る運動」も心に残ります。本年、近代美術館が30周年を迎え、平成17年6月には800万人目の入場者を迎えたことも忘れられません。

総会或いは理事会で、会員、理事、ボランティア各部の皆様と、口角泡を飛ばして議論したのも、貴重な経験でした。

今、世界では、局地的なテロが収まることなく、悲劇は繰り返されています。

経済の世界も、数値を追求するだけの、弱肉強食の闘いが目立ちすぎます。

私達の日常生活の周りでも信じられないような、事件、事故が起き、教育の根本も問われています。このような時代こそ、「美」を楽しみ、「心の豊かさ」を求めることが、益々必要となって参ります。

もともと美術館は、国、地方自治体、或いは大企業の基盤がなければ、存立しません。しかし、今はその基盤が甚だ脆い時代になっているのです。

そして、どんなに整備された文化施設でも、これが「心の豊かさ」を求める来訪者と、地域住民の愛情のこもった支援がなくては、存続は不可能です。

その意味で、北海道美術館協会は、素晴らしい団体です。私も、ここで仕事させて頂いたことを、生涯の誇りと自負しております。

改めて、会員、理事、とりわけボランティア活動に、情熱を燃やし続ける皆様に、心より感謝申し上げます。

そして、協会の益々の発展をお祈りいたします。

アルテピアは永遠です。有難うございました。

MUSEUM CALENDAR

2007. 9 ~ 2008. 3

美術館の展覧会ご案内

	9	10	11	12	1	2	3
近代美術館	7/21 ~ 9/6 ダリ展	9/14~10/21 大倉集古館の名宝 「日本美術ノ光華」	11/1~1/24 Born in HOKKAIDO 大地に実る、人とアート			2/1~2/10 日本建築家協会 北海道支部 建築展 『ココロで審 らす。ココロで審 らす』	2/19~3/23 吉村作治の 早大エジプト発掘 40年展
美三岸 術好太 館郎	9/8~10/21 ジョルジュ・ルオー と三岸好太郎		10/27~1/20 ブルー・グリーン・グレー 北方（きた）の色彩			1/25~3/27 三岸好太郎をめぐる 人間模様	
旭川 美術館	9/1~10/14 モーリス・ユトリロ 孤独な魂が描いたパリの街角		10/20~12/9 丸木俊・スマの世界 いのちあるものたちへの賛歌		1/16~2/17 (第2展示室・特別展) アール・ブリュット・ コレクションと日本の アウトサイダー・アート 12/15~4/13 (第1展示室・所藏品展) 森の贈りもの 木の造形・25年の精華		
函館 美術館	8/4~9/24 絵本作家 ワンダーランド 世界の絵本作家展II	9/30~10/14 奥の若手道 N.E.Blood21 東北・北海道 の明日	10/21~12/9 現代書の展開 SHO/21世紀のかたち		12/15~3/23 鎌田俳捺子展		
帯広 美術館	8/10~10/17 北の風土と四季の彩り		10/27~11/14 浅野修展 虚と実	11/22~1/30 オランダ絵本作家展		2/8~3/26 ポスターと絵画による仮想ツアー パリそぞろ歩き	
釧路 芸術館	8/31 ~ 9/6 宮脇展壇の 住宅展	9/15~11/5 生誕100年 斎藤清展		11/17~1/20 親子のアトリエ 遊んで学ぼう 伝統のわざと知恵		2/2~3/30 コレクション・ギャラリー	
美幌 芸術の 館森	8/10~9/30 洪澤龍彦 幻想美術館		10/6~11/25 大本靖 版画展		12/1~1/27 愛する美術 PART1		2/2~3/30 愛する美術 PART2
札幌 彫刻 美術館 本郷 新記念	8/25~10/14 第13回本郷新賞受賞記念 前田哲明彫刻展		10/20~11/11 形の復権 〈形-景観と象 徴の狭間で〉展		11/17~3/30 本郷新と野外彫刻展		

平成19年度移動美術館

—北海道立近代美術館・釧路芸術館コレクション—

- ◎9月23日(日)~29日(土) 斜里町公民館「ゆめホール知床」
TEL 0152-22-2222
※24日(月)休館
- ◎10月2日(火)~8日(月) 根室市総合文化会館
根室市曙町1丁目40番地
TEL 0153-24-3188



平成18年度 寿都会場にて

— 入 場 無 料 —

近代美術館

Born in HOKKAI DO
大地に実る、人とアート

一月一日(木)～一月二十四日(木)

開館三〇周年をかざる当館自主企画展のテーマは、やはり、「北海道」です。この地に生まれ育ったアーティストにとって、その独特の気候風土や文化的土壌は、ライフスタイルや文化が多様化する現代にあってもなお、感覚や感性、そして芸術表現の形成に重要な関わりをもっています。本展では、現在活躍中の北海道出身アーティスト一六名による、みずみずしく多彩な表現の数々を紹介。さらには札幌市内の小中学校

との連携により、未来をになう子どもたちが当館の北海道美術コレクションの鑑賞やアーティストとのワークショップなどを通じて制作した作品もあわせて展示します。北海道の大地にしっかりと根をはる大樹。その幹から分化し、のびゆく新たな創造力の枝が、それぞれに豊かな実を結んでいく…そんなイメージをもったご覧いただければ幸いです。



池田光弘
《untitled》
2005年 個人蔵

三岸好太郎美術館

開館三〇周年記念
ジヨルジュ・ルオーと三岸好太郎展

九月八日(土)～一〇月二二日(日)

ジヨルジュ・ルオー(一八七二～一九五八)は、モローに師事し、レンブラントやドーミエの作品にも学んだフランス人の画家です。道化師などサーカスの役者の姿、法廷風景、宗教的な題材などをしばしば作品にとりあげたルオーは、描くことを通じて人間を深く見つめ続けました。彼の作品は早くから日本でも紹介され、日本人の画家達に刺激を与えました。札幌出身の洋画家・三岸好太郎(一九〇三～一九三四)もそのひと



三岸好太郎
《婦人像》
1932年頃 当館蔵

りです。三岸が一九三〇年前後に制作した「道化シリーズ」や人物画には、モチーフを縁取る太い線や、大胆な筆遣い、重厚感ある色彩などの特徴が見られ、ルオーの影響をうかがえます。本展では、貴重な初期作品を含め四〇点以上の作品によりルオーの画業を紹介いたします。あわせて、当館所蔵の三岸作品から、ルオーの影響が見られる作品に加え、代表作の数々もご覧いただけます。

旭川美術館

アール・ブリュット・コレクション
と日本のアウトサイダー・アート

一月一六日(水)～二月一七日(日)
(第二展示室)

近年、障害のある人々が制作した絵画や彫刻が注目されています。国際的には「アール・ブリュット(生の芸術)」や「アウトサイダー・アート」と呼ばれ、また日本では「エイブル・アート(可能性の芸術)」「ボーダレス・アート(境界のない芸術)」とも呼ばれています。芸術に関する教育から大きく隔てられた人々にも、心からだの奥深くから噴出してくる独自の創造力がある。

また、創作と発表を通じて、障害の有無を超えた共生の社会を実現していく。アール・ブリュットやボーダレス・アートという呼び名には、こうした考え方が強く込められているようです。本展は、このジャンルでは先駆的な活動を展開してきたスイスの美術館「アール・ブリュット・コレクション」が所蔵する欧米の作品と、日本の現代の作品を紹介するものです。



(参考図版)
澤田真一〈無題〉

函館美術館

鎌田俳捺子展

一月一五日(土)～三月三日(日)

鎌田俳捺子は一九二三年、函館に生まれ、女子美術専門学校(現・女子美術大学)に学んだ後、函館に戻り、作家活動を始めました。一九六八年には札幌に居を移し、さらに幅の広い活動を展開、一九九五年には、札幌芸術の森で大規模な回顧展も開催されるなど、北海道の美術界を支える作家として高い評価を受けています。現在は、再び函館に拠点を戻し、旺盛な作家活動を続けています。

本展は、七〇歳を超えてからも、意欲的な制作に取り組む鎌田の一九九〇年代以降の近作を中心に、初期からの重要作も交えて、具象、非具象、抽象と、そのスタイルを大胆に変えながら歩んできた画業を改めて検証します。



《水中花》
2005年

帯広美術館

かえるくん、ミッフィーと
オランダ絵本の仲間たち
オランダ絵本作家展

十一月二日(木)～一月三〇日(水)

「絵本の国」オランダでは、二〇世紀初頭以来、独自の個性を発揮した優れた絵本が数多く出版されてきました。日本でも、「かえるくん」シリーズのマックス・ベルジュイスと人気者「ミッフィー」を生んだディック・ブルーナは、いち早く受け入れられ、多くの絵本が出版されてきました。

本展は、多彩な個性と独特の味わいで知られる、オランダ絵本の魅力を日

本に伝える初めての本格的な展覧会です。出品作品は、オランダ絵本界の二大巨匠といわれる、ベルジュイスとブルーナの作品を中心に、現在活躍中の絵本作家一〇人に加え、絵本原画や出版絵本、二年前惜しまれつつ亡くなったベルジュイスの遺品などの資料が展示されます。

オランダを代表する絵本作家の心温まる作品の数々に触れて下さい。



アンネマリー・ファン・ハーリング
《おおくなりたいちびろくん》1998年
© Annemarie van Haeringen

釧路芸術館

生誕一〇〇年 斎藤清展

九月一五日(土)～一〇月一五日(月)

日本を代表する木版画家である斎藤清は、一九〇七年福島県会津に生まれ、その後は四歳からほぼ二〇年間にわたる夕張、小樽で過ごすなど、北海道とも深いゆかりがあります。上京後、独学で絵画や版画を学び、安井曾太郎の作品との出会い、棟方志功などの交流を通し、独自の表現を築き上げていきました。伝統的な技法を用いながら斬新な造形感覚で日本や世界各地の風景を描いた作品は、早くから国内ばかりでなく海外でも高い評価を受け、今

なお根強い人気を誇っています。

本展は、斎藤清の生誕一〇〇年、没後一〇年を記念して企画されました。生まれ故郷の福島県立美術館のコレクションを核として構成された出品作品は、木版画を中心に、ポンドやセメントを用いたコラグラフ、ドライポイント、水墨画、素描などで構成されています。初期から晩年にいたる一五五点の作品群は、斎藤清の芸術世界を存分に堪能させてくれるでしょう。



《初秋、会津》1973年
福島県立美術館蔵

芸術の森美術館

大本靖展
山の鼓動、樹々のうた

一〇月六日(土)～一〇月二五日(日)

※一〇月は無休・一〇月一日は月曜休館

大本靖は、北海道版画界を牽引してきた札幌在住の版画家です。初期に緊密な抽象表現を展開したあと、多色刷木版によって北の自然をテーマとする作品を数多く制作してきました。

大本作品においては、大胆に単純化された形態と斬新な構図によって、自然の風景がダイナミックに再構成されています。そこに表された山々や樹々の

姿は、圧倒的な存在感をもって見るものに訴えかけます。大本の優れた造形感覚によって、生き生きとした自然のエネルギーが、洗練された造形的魅力をもって表現されていると言えるでしょう。

本展では、初期作品から最新作まで約百点の版画作品と資料によって大本の半世紀に渡る歩みをたどり、自然の息吹をかたちに表してきたその芸術の魅力をも、余すところなくご紹介いたします。



《ようてい》
1993年 作家蔵

本郷新記念札幌彫刻美術館

第一三回本郷新賞受賞記念
前田哲明彫刻展

八月二五日(土)～一〇月一四日(日)

本郷新記念札幌彫刻美術館は、日本全国に多数の野外彫刻を制作設置した彫刻家、本郷新(一九〇五～一九八〇)の業績を記念して一九八三年に「本郷新賞」を創設しました。「本郷新賞」は、過去二年間に公共空間に設置された彫刻の中で、環境に調和した優秀な作品一点を選び、賞を贈ります。今年も、第一三回を迎えました。

第一三回の選考対象となったのは、二〇〇五年から二〇〇六年の二年間に日本全国の公共空間に制作設置された作品です。あらかじめ、当館が委嘱した委員より

推薦された三六点の候補作品をもとに、選考委員会が開催されました。設置者等から収集した資料をもとに五人の選考委員が厳正な審査を行い、栃木駅西口駅前広場に設置された前田哲明制作《焔樹》がダイナミックなフォルムを支える力強い構造であり、パブリックスペースに設置された作品として空間的な広がりの中に爽やかな印象を与える優れた作品であると評価され、「第一三回本郷新賞」に選ばれました。

受賞を記念して、前田哲明の鉄の彫刻による展覧会を開催します。



《焔樹》2005年

A・RE・KO・RE

information

■近代美術館の夜間開館

9月の夜間開館日は、7、14、21、28日の金曜日、開館時間は19時30分（入場は19時）までとなります。

秋の宵、静けさの中で芸術に触れてみませんか。

■ミニ・リサイタルのご案内

三岸好太郎美術館では、三岸の作品〈オーケストラ〉にちなんで、プロの音楽家を目指す若手によるミニ・リサイタルを美術館展示室内で開催します。

9月からの予定は次のとおりです。

第134回 12月15日（土）

第135回 1月19日（土）

第136回 2月16日（土）

第137回 3月15日（土）

（開演はいずれも14時から）

■2階ロビー“喫茶コーナー”

近美のレストラン「ぼーぎーる」によるロビーでのソフトドリンク喫茶コーナー。

昨年7月から開設って、ご存じでしたか？

前庭を眺めながら、憩いのひとときをどうぞ。



■芸術週間 Art Week

11月1日（木）から7日（水）の間中は、各道立美術館においてミュージアム・コンサート等多彩なアートイベントを開催します。

近代美術館のこれくしょん・ぎゃらりい及び三岸好太郎美術館の入場料は無料となります。

■近美開館30周年記念事業

ダリ展がオープンした7月21日は、近代美術館が1977年に開館した日でした。

当日は、図録市を1階ロビーにおいて開催、多数の来館者でにぎわいました。

図録市における収益金は、近代美術館と当協会の連名で、「あしなが学生募金」に寄付しました。

〈大盛況！図録市〉



〈淡交会による優雅なお茶会〉

〈「ぼーぎーる」が期間限定でビア・ガーデンを開設しました〉



今後も、10月31日には30周年記念式典並びにレセプションが催されることになっております。

■女性用トイレ改修

先日の総会で、会員から要望が出されていた近代美術館1階女性用トイレの改修が行なわれました。

車椅子用個室の扉を直し、照明と壁を明るくしました。

美術館の迅速な対応に感謝いたします。

事務局だより



平成一九年度通常総会開催の報告をします。

去る五月三〇日、道立近代美術館講堂において総会が開かれ、提案議題について審議されました。その概要について、主なものを報告します。

議案第一号の平成一八年度事業及び収支決算報告については、原案どおり承認可決されました。

その中でも、特に貸館の場合も会員証で観覧出来ることとした結果、観覧料の支出が増加したことや、館外活動「美術への誘い」事業の評判が良く定着してきていること、美術講座は年々評判を呼び受講者が増えていること、海外・国内美術研修旅行を実施したこと、絵はがきの売上が前年度を大幅に上回ったこと、近美入館者八〇〇万人目達成・協力会創立三〇周年を指して植樹祭をしたことや、駐車場に関しては、入館者、一般利用者共に利用台数、使用料とも前年度を上回ったこと、更に、収支決算では一般会計で八万七千円の赤字決算になったこと、売店会計では売上収入が大幅に伸び四一〇〇万円を超え、一〇三万円の黒字決算になったこと、駐車場会計では賃借

料が一六万円と大幅に増額になったが、八一万七千円の黒字決算になったことを説明。

なお、会員数については、平成一九年三月末で法人・個人会員合計一〇五九人で、前年比五九人の減となっております。

平成一八年度の収支決算については、「表一」のとおりです。

議案第二号の平成一九年度の事業計画及び収支予算案については、原案どおり承認可決されました。

平成一九年度の事業は、次のように計画しています。ただし、すでに事業が終了したもの、進行中のものもありますのでご了承ください。

一 道立美術館の事業活動に対するボランティア活動協力

近代美術館の常設展の解説、美術関係資料の整理、アミューズランド事業のほか、芸術週間での事業及び三岸好太郎美術館での解説等ボランティア活動による協力

二 美術展観覧者増員への協力
会員証利用による美術展観覧者の増員協力、観覧料の負担

三 美術館普及活動への協力
会報の発行・ポスターの配布、

四 美術講座の実施
一五講座を五月〜九月に実施

ボランティア希望者にはその後、更に共通研修・専門研修を一〇月

〜三月に実施

五 「つどい二〇〇七」の実施

通常総会終了後開催。近代美術館一階ホールで会員の交流と親睦を図る「ワインとシャンソンの夕べ」が開かれ、一六四名が参加

六 「ジュニア・アート・クラブ」等の実施

美術に対する関心を高揚するため、子どもや大人を対象に、アート・クラブを実施 (年四回)

七 「美術への誘い」の実施

美術に対する関心を深めるため、要請に応じ区民センター等に出向き、美術や美術館の紹介を実施 (年一五回)

八 近代美術館の三〇周年記念の協力

三〇周年記念品として大型液晶テレビ二台を贈呈
九 美術研修旅行の企画・実施
(一) 第二六回海外旅行
芸術の都パリ八日間
一〇月二二日〜一〇月二八日

(二) 第二五回道外旅行
六泊八日
信州(松本、軽井沢、上諏訪)
美術館巡り
九月二六日〜九月三〇日

四泊五日

一〇 図録・絵はがき等の作成・販売

一一 「美術館協力会賞」の贈呈

学生美術全道展への後援と最優秀作品に賞の贈呈(副賞付き)

一二 会員の拡大・PR

一三 ボランティア活動五年間の「あゆみVI」の編集・発行

一四 売店・駐車場の経営・管理

平成一九年度の収支予算については「表二」のとおりです。

議案第三号の会員の資格喪失(会費の二年分以上未納者)については、法人・個人会員合計一九名が資格喪失として原案どおり承認可決されました。

議案第四号の定款の一部改正(事務所所在地の変更)については、原案どおり承認可決されました。

議案第五号の役員の選任については、武井正直理事(会長)が健康上の理由から退任し、後任には、吉野次郎氏を選任することについて、承認可決されました。また、理事の互選により吉野次郎理事を会長に充てる旨の報告がありました。

議案第六号の名誉会員の推薦については、退任する武井正直会長を名誉会員に推薦することについて、承認可決されました。

退任の武井会長には、吉野新会長から感謝状と記念品が贈呈されました。

以上をもって、全議題を終了したので、閉会となりました。

(表1) 平成18年度収支決算総括表(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

(単位:円)

収 入 の 部					支 出 の 部						
科 目	合 計	一般会計	特 別 会 計		内部取引 消 去	科 目	合 計	一般会計	特 別 会 計		内部取引 消 去
			売店会計	駐車場会計					売店会計	駐車場会計	
基本財産運用収入	1,800	1,800	0	0	0	事業費支出	63,747,663	6,803,624	39,728,265	17,215,774	0
特別収入	5,387	5,387	0	0	0	管理費支出	5,590,573	5,590,573	0	0	0
会費収入	10,741,000	10,741,000	0	0	0	特定資産取得支出	5,387	5,387	0	0	0
事業収入	60,308,625	1,235,000	41,047,012	18,026,613	0	他会計への繰入支出	300,000	0	300,000	0	0
寄付金収入	0	0	0	0	0						
他会計からの繰入収入	300,000	300,000	0	0	0						
雑収入	47,358	29,050	11,521	6,787	0	当期支出合計	69,643,623	12,399,584	40,028,265	17,215,774	0
当期収入合計	71,404,170	12,312,237	41,058,533	18,033,400	0	当期収支差額	1,760,547	△87,347	1,030,268	817,626	0
前期繰越収支差額	29,984,056	5,561,468	19,213,926	5,208,662	0	次期繰越収支差額	31,744,603	5,474,121	20,244,194	6,026,288	0
収入合計(B)	101,388,226	17,873,705	60,272,459	23,242,062	0	支出合計(B)	101,388,226	17,873,705	60,272,459	23,242,062	0
予 算 額 (A)	84,732,000	17,511,000	49,012,000	18,209,000	0	予 算 額 (A)	84,732,000	17,511,000	49,012,000	18,209,000	0
差異(A-B)	△16,656,226	△362,705	△11,260,459	△5,033,062	0	差異(A-B)	△16,656,226	△362,705	△11,260,459	△5,033,062	0

(表2) 平成19年度収支予算総括表(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位:千円)

区 分	収 入 の 部					支 出 の 部					
	科 目	予 算 額	前年度予算額	差 異	備 考	科 目	予 算 額	前年度予算額	差 異	備 考	
一 般 会 計	基本財産運用収入	2	2	0	定期預金利息	事業費支出	7,098	5,902	1,196		
	特別収入	6	6	0	美術振興基金利息	美術館活動協力事業費	5,365	4,824	541	V活動経費、会報・部内報印刷費、 会員観覧料等経費	
	会費収入	10,518	10,251	267	法人、個人会員等年会費	美術講座等開催事業費	1,553	885	668	美術講座資料作成費・ つどい経費等	
	事業収入	1,080	1,170	△90	美術講座受講料・つどい会費等	美術館研修視察事業費	129	142	△13	美術研修視察事前研修経費等	
	寄付金収入	10	10	0		美術優秀創作顕彰事業	51	51	0	協会会員の贈呈経費(商品券)	
	雑収入	11	11	0	普通預金利息	管理費支出	5,928	5,967	△39	運営管理費	
	他会計からの繰入収入	14,500	500	14,000		特定資産取得支出	13,000	0	13,000	美術振興基金積立預金支出	
	当期収入合計	26,127	11,950	14,177		当期支出合計	26,026	11,869	14,157		
前期繰越収支差額	5,474	5,561	△87		当期収支差額	101	81	20			
収入合計	31,601	17,511	14,090		次期繰越収支差額	5,575	5,642	△67			
					支出合計	31,601	17,511	14,090			
特 別 会 計	売店 会 計	売上収入等	30,000	25,000	5,000	売上収入	事業費支出	29,702	24,972	4,730	仕入、賃金、施設賃借料等
		雑収入	2	2	0	預金利息	他会計への繰入支出	12,500	0	12,500	
		当期収入合計	30,002	25,002	5,000		当期支出合計	42,202	24,972	17,230	
	駐 車 場 会 計	前期繰越収支差額	20,244	24,010	△3,766		当期収支差額	△12,200	30	△12,230	
		収入合計	50,246	49,012	1,234		次期繰越収支差額	8,044	24,040	△15,996	
							支出合計	50,246	49,012	1,234	
内 部 取 引 消 去	駐車料金収入	15,000	13,000	2,000	駐車場利用収入	事業費支出	14,751	11,470	3,281	管理委託料、土地借上料等	
	雑収入	1	1	0	預金利息	他会計への繰入支出	2,000	500	1,500		
	当期収入合計	15,001	13,001	2,000		当期支出合計	16,751	11,970	4,781		
	前期繰越収支差額	6,026	5,208	818		当期収支差額	△1,750	1,031	△2,781		
収入合計	21,027	18,209	2,818		次期繰越収支差額	4,276	6,239	△1,963			
内部取引消去	△14,500	0	△14,500		支出合計	21,027	18,209	2,818			
総 合 計	88,374	84,732	3,642		総 合 計	88,374	84,732	3,642			

WELCOME

アルテピア会員募集

世界の art に出会える

年会費等詳細は北海道美術館協力会（アルテピア）札幌市中央区北2条西17丁目 TEL・FAX 011-644-4025
ホームページアドレス <http://www.artepia.or.jp>

つどい2007

5月30日に開催された今年のつどいは、「近美開館30周年記念コレクション展 = エコール・ド・パリによせて =」にちなみ、ボルドーワインを楽しみながら、ゲストMEGUさんのドラマティックなシャンソンを心ゆくまで堪能しました。



〈MEGUさんの熱唱〉



〈164名が一堂に〉

ミュージアム*・スクール2007

《ミニ・アトリエ「キラキラ☆キューブ」であそぼう》

7月26日から8月19日までの間、ミュージアム・スクールの一環であるミニ・アトリエが開催されました。



参加したみなさんは、キュービック サークルカラフルな透明積み木「cubic circle」遊びや、紙のサイコロ作りにチャレンジし、不思議な線のつながりに、新しい発見を体験しました。*



編集だより

「近美」30周年、おめでとうございます。

今年度の近美は、30周年を冠した特別展が目白押しで、目が離せません。また今年4月には、昨年度の「アイヌ文様の美」展が、美術館連絡協議会初代大賞を受賞しました。

このような中、20数年も会長を担ってこられた武井正直氏が勇退されました。本当に長い間お世話になりました。後任には吉野次郎氏が就任されました。よろしくお祈りします。(T)

ひとくちモ

「大倉集古館」って？

1917年、明治の実業家大倉喜八郎氏によって創立された日本初の私立美術館。

明治維新後の世相や廃仏毀釈により日本の芸術品が海外に流出するのを惜しんで集められたコレクションを中心に、国宝・木造普賢菩薩騎象像をはじめ、絵画や彫刻、書、工芸品、能装束などの美術品約2000点、さらに3万5千冊あまりの漢籍を所蔵しています。

ホテルオークラ（東京）正面玄関前に建つ集古館は、建築家伊東忠太氏設計によるもので、国の登録有形文化財に指定されています。

（参考 HP：eHills Club「港区ぐるっと美術館ガイド」より）

URL http://www.ehills.co.jp/rp/dfw/EHILLS/townguide/museum/sin_ohkura.php